

【屋久島国有林
行政訴訟】

裁判宣告書

下屋久村
関係の分

やまもとひでお
山本秀雄

本誌三十三号（平成七年二月一日発行）の本欄に『不当処分
取消並二国有林下戻請求ノ行政訴訟・裁判宣告書』を紹介した
が、その折に取り上げたのは上屋久村関係分のみで、下屋久村
関係分には及ばなかった。後日、読者から下屋久村関係分の掲

載も要望されながら、今日に至りました。この点お詫びし、遅
ればせながらここに下屋久村関係分を紹介させていただきます。
『屋久島の国有林の沿革』を知る資料として、三十三号と合わ
せてご覧くださるようお願いいたします。

裁判宣告書

原告 鹿児島県熊毛郡下屋久村

大字 船行 外九大字

右代表者

下屋久村長 羽生源五

右訴訟代理人

弁護士 大西孝次郎

同 法学博士 原 嘉道

同 播磨辰治郎

同 大沢真吉

同 坂本生成

被告 農商務大臣 山本達雄

右訴訟代理人

弁護士 濱地八郎

同 矢部 廉

右当事者間ノ明治三十七年第八十九号国有山林下戻申請
却下処分取消ノ訴ニ付キ審理判決スルコト左ノ如シ。

主 文

原告ノ請求相立タズ。

訴訟費用ハ原告ノ負担トス。

事 実

原告主張ノ要旨ハ、係争山林ハ鹿児島県熊毛郡屋久島ノ中
央ヨリ南方ニ連亘セル一帯ノ山脈ニシテ天然生ノ老杉大木
ハ其主要ノ産物ナリ。而シテ樹齡數千年目通り周囲數十尺
ニ達スルモノ多ク、木質堅密、油脂豊富、文理美麗ニシテ
屋久杉ナル特殊ノ名称アリ。而シテ屋久全島中所謂屋久杉
ヲ産スル高地ハ、悉ク本件係争山林ト当片明治三十七年第
二百十四号事件ノ係争山林中ニ包含ス。而シテ原告各大字

なお宣告書原文には

句読点はありませんが
読みやすくするためこ
れを付し、また原文中
「且、且ツ」「及、及
ビ」「付、付キ」のご
とく、同じよみで送り
仮名のあるとないが
混用されている語につ
いては、送る方の表記
に統一しました。



ハ、村持支配山トシテ此係争山林ヲ所有シ、其効果トシテ樹木ヲ採取処分シ来リタルハ勿論、所謂屋久杉ト称スル老杉大樹モ繼續シテ且ツ自由無制限ニ採取処分シ来リタルコトハ、屋久杉ヲ以テ平木其他ノ製材ヲ作り平木ヲ以テ原告各大字ノ田畑、屋敷、用夫等ニ賦課セラルル各種ノ租税公課ノ上納ニ充テ(甲第二号証乃至第九号証、第十四号証及ビ参考第一号証)、或ハ該平木其他ノ製材ヲ以テ原告各大字人民ノ使用スベキ米穀トノ交換ニ充テ(甲第四号証、第五号証、第十号証、第十三号証乃至第十五号証)、借受米銀ノ返済ニ代用シ(甲第十号証及ビ第十一号証)、売買寄託等各民事取引ノ目的物ニ充テ(甲第六号証、甲第九号証、第十六号証及ビ参考第二号証)、或ハ民家建築ノ利用ニ充ツル(甲第十二号証)等ノ事実アルコトニ依リ明白ナリ。而シテ屋久杉ハ、一度之ヲ採用スルトキハ其後少クトモ數千年ヲ経ザルニ非ラザレバ採取シタルモノト等シキ老杉大木ガ再生シ得ザルハ勿論、仮令數千年ヲ経ルモ同様ノモノノ再生ヲ見ルコト稀有ナリト認ムルヲ相当トス。即チ係争山林ヨリ屋久杉ヲ採取処分シタル後ハ殆ンド無価値ノ雜木ヲ余スノミニシテ、山林トシテハ全然価値ナシト云フモ不可ナシ。故ニ原告各大字ガ係争山林ニ於テ此貴重ナル天然生ノ老杉大木ヲ繼續シテ且ツ自由無制限ニ採取処分シタルハ、元本其モノヲ処分シタルモノニシテ、係争山林所有効果ト認ムベキコト明瞭ナリ。而シテ旧藩庁ガ租税公課トシテ賦課シタル米粟等二代ヘテ平木ノ上納ヲ受ケ、島外ヨリ輸送シタル米穀ヲ以テ平木其他ノ製材ト交換シ、貸付米銀ノ返済ヲ受クル代リニ平木ヲ受取り、又ハ平木其他ノ製材ヲ買取りタル等ノ事実アリタルコトハ、原告各大字ガ屋久杉ヲ繼續シテ且ツ自由無制限ニ採取処分シタルコトヲ旧藩

庁ガ公認シタルモノト認メザルベカラズ。如此係争山林ハ原告各大字ノ所有ニ属セシニ、明治ニ至リ、鹿児島県令ヨリ係争外旧藩主仕建山ノ杉木払下ヲ受ケタル平川風之助ガ濫リニ係争山林ニ立入り屋久杉ヲ伐採シタルニ因リ、同人ト原告トノ間ニ一大紛擾ヲ惹起シ、其結果鹿児島県令ヨリ一時係争山林ノ伐採ヲ差止ムルニ至ルヲ以テ、明治八年十月原告各大字ノ副戸長、戸長、副区長ヨリ同県令ニ對シテ係争山林ニ付キ甲第一号証ニ依リテ村持從前之通被仰付度旨ヲ願出、明治九年一月八日付ヲ以テ同県令ハ右願出ノ趣聞届候条、地租改正迄ハ從前通り相心得、ベク旨ヲ指令シタルモノニシテ、要スルニ同県令ガ原告ニ於テ係争山林所有ノ事実アルコトヲ公認シタルモノト云ハザルベカラズ。被告ハ、原告各大字ガ屋久杉ヲ採取処分シタル事實ヲ尚單純ナル毛上山稼ニシテ收益管理ノ行為ナリト主張スルモ、屋久杉ハ採取スルニ從ヒ其跡ニ自然ニ成育シ僅少ノ年月ヲ経テ再ビ採取シ得ベキ薪炭材若クハ肥草ノ類ニ非ズ。又、林業經濟上ニ於テ収益行為ト見ルベキ一部立木ノ採取ニモ非ズ。土地ヨリモ遙ニ貴重ナル老杉大木ヲ採取処分シタルモノナルコト上述ノ如ク、且ツ採取処分シタル數量ハ上述ノ如ク無制限ナルガ故ニ、此点ニ関スル被告ノ主張ハ失当ナリ。又、被告ハ原告各大字ガ上述ノ採取処分ヲ為スコトヲ得タルハ、旧藩庁ノ許可ニ因スルモノニシテ係争山林所有ノ効果ニアラスト主張スルモ、旧藩庁ノ許可云々ト云フガ如キハ被告ノ陳弁ニ止マリ、許可ヲ受ケタルコトヲ見ルベキ事實証拠ナシ。加之ニ被告ハ、旧藩庁ガ係争山林ノ或部分ニ付テノミ屋久杉ノ採取ヲ許可シタルト主張スルモ、何レノ時何レノ部分ヲ許可シタルヤニ付キ事實ヲ挙示証明スル能ハザルモノナリ。又、被告ハ、屋久島ガ米粟ノ産出少



各種記念写真・家族写真等

* APS、パノラマ〜W六切までスピード仕上げ
* 同時プリントすべてにインデックスプリント付

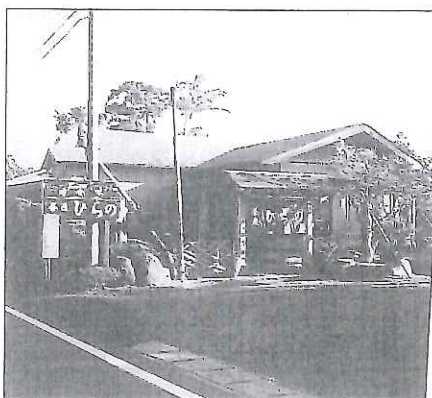
●写真のトータルショップ

中峰写真館

〒891-4205 鹿児島県熊毛郡上屋久町宮之浦2368-17 ☎09974(2)1248 中峰秀典

ナク且ツ成業少ナキヲ以テ米粟ヲ租税上納又ハ交換ノ用ニ供セシムルハ不可能ナルヲ以テ、不得止旧藩庁ハ係争山林ノ或部分ニ於テ屋久杉ノ採取ヲ許可シタリト主張スルモ、被告主張ノ此理由ニ依ルモノトセバ採取シ得ベキ数量ハ一定セル必要ノ程度ニ限ラレザルベカラズ。然ルニ何等採取數量ガ限定セラルルコトナシ。從テ此点ニ関スル被告ノ主張モ亦失当ナリ。又、被告ハ、乙第一号証ニ依リ平木製出ノ為メニ係争山林ノ老杉大木ヲ採取処分スル場合ニ自由無制限ナラザリシコトヲ証セントスルモ、本証記載ノ如キ木元願ハ旧藩政中或時代ニ之ヲ為シタルコトアルモ、船又ハ家作ニ使用スル場合ニ為シタルモノニシテ本件ノ如ク平木製出ノ為メ採取処分シタル場合ニ如此願ヲ為シタルコトナシ。且ツ如此木元願ハ係争山林ノ立木ノミニ限り之ヲ為シタルモノニアラス。苟モ船又ハ家作ニ使用スル以上ハ、其地方係争地内ニアルト他ノ既定民有地ニアルトヲ問ハズ之ヲ為シタルモノナリ。而シテ木元願ノ免許ヲ受ケタルモノハ御礼差杉ナル名義ノモトニ杉ノ私費植栽ヲ為スコトヲ要シ、木元願ト相俟テ山林行政ノ目的ヲ達スルコトト為リ居リタルモノトス。從テ本証ニ依リ、係争山林ノ立木伐採ニ付キ藩ノ許可ヲ要シタルコト、採取処分ガ自由無制限ナラザリシコト、係争山林ガ原告ノ所有ニアラザリシコトヲ証スルニ足ラス。又、被告ハ、甲第二号証以下並ニ参考証ヲ以テ単ニ平木ニ関スル証拠ナリトシ、係争山林所有ノ事實ヲ証スルニ足ラズト主張スルモ、前示諸証ニ記載スル平木ハ屋久杉ヲ以テノミ製出スルコトヲ得ベク、而シテ屋久杉ハ係争山林内ノ高地ニ限り成育スルモノナルヲ以テ、平木ニ関スル此等ノ証拠ハ即チ係争山林ニ関スル証拠ト為スベキモノナリ。又、被告ハ、鹿児島県令ガ甲第一号証ノ指令

ヲ為シタルハ地租改正事務局ノ設置後ナルヲ以テ、県令一存ニテ地租改正処分ニ依ラズシテ官民有テ区分シ係争山林ヲ民有ト決定シ得ベキモノニアラズト主張スルモ、原告ハ本証ニ依リ敢テ官民有区分ノ査定アリタルト云フニ非ズ。同証ニ依リ係争山林ニ関スル積年ノ慣行ヲ公認シタルモノニシテ、其公認シタル事實ニ基キ地租改正処分前係争山林所有ノ事實アリタルコトヲ主張スルモノナリ。而シテ積年ノ慣行ヲ承認シ、從前ノ通り村持支配山トシテ屋久杉ヲ自由無制限ニ採取処分スルコトヲ聽許スルハ地租改正処分ノ一部ニ非ザルガ故ニ、地租改正事務局設置後ト雖モ敢テ裁断ヲ仰グノ必要ナク、一般行政官タル県令ガ有効ニ為シ得ベキモノナルガ故ニ、此点ニ関スル被告ノ主張モ亦失当ナリ。又、被告ハ、同証中ノ「村持支配山」ノ文字ハ原告各大字ノ申立ニ過ギザルノミナラス、其文意ハ村管理支配ノ意義ニシテ其所有ノ意義ニ非ズト主張スルモ、原告各大字ヨリ從前ノ通り村持支配山ニ被仰付度旨ヲ願出タルニ對シ県令ガ願ノ旨聽届ヲ指令シタルモノナルガ故ニ、単ニ原告ノ申立ニ止マルモノト云フヲ得ズ。從テ此点ニ関スル被告ノ主張モ亦失当ナリ。又、被告ハ、自然生ノ杉立木ノ採取ハ山林所有ノ効果ト見ルコトヲ得ズト主張スレドモ、要ハ採取ガ元本処分ノ範圍ニ属スルヤ収益ノ範圍ニ属スルヤニ在リテ、自然生ノ杉立木ノ採取ハ必ズシモ山林所有ノ効果ト見ルコトヲ得ザルモノニ非ズ。又、被告ハ、平木ハ伐採加工ニ依リ所有ニ歸シタルモノナルガ故ニ其処分ヲ以テ山林所有ノ効果ト為スヲ得ザル旨抗弁スレドモ、原告ハ、平木ガ採取加工ニ依リ所有ニ歸シタルコトヲ認メザルノミナラス、採取加工シタル平木ノ処分ノミヲ以テ係争山林所有ノ効果ナリト云フニ非ズ。上述シタルガ如キ全般ノ事實ヲ



屋久然料理・田舎味

茶屋 いらの

昼 11:00~3:00
 夜 (要予約) 6:00~9:00
 電話 09974 (6) 2816 公衆 (6) 3880
 屋久町安房2617-3 平野バス停前



一括シテ之ヲ主張スルモノナルガ故ニ、被告ノ此ノ抗弁モ亦失当ナリ。

(筆者注)上屋久村の宣告書には次の文言が挿入されている。「又、被告ハ、甲第四号証以下ハ個人關係ニシテ村方ヲ代表シタル個人ノ行為タルコトヲ見ルニ足ラザルヲ以テ村方請求ノ証拠ト為スニ足ラズト云フモ、甲第四号証乃至第七号証、第九号証、第十一号証乃至第十三号証ハ何レモ藩吏ノ書面ナルヲ以テ被告ノ此抗弁モ亦失当ナリ」

之ヲ要スルニ、原告ハ往古ヨリ係争山林ヲ所有シ来レルニ拘ハラズ、原告ノ国有土地森林原野下戻法ニ依ル申請ニ對シ被告ガ聞届ケ難キ旨指令シタルハ失当ナルヲ以テ、原告ノ国有山林下戻申請ヲ却下シタル被告ノ明治三十六年十月二十八日附農商務省指令林第一〇八九号ノ指令ヲ取消シ、被告ハ原告各大字ニ對シ大正五年六月七日附提出訴狀一定ノ申立補正書記載ノ各山林ノ土地並ニ立木ヲ下戻スベシ、訴訟費用ハ被告ノ負担トスル旨ノ判決ヲ求ムト云フニアリテ、立証トシテ甲第一号証乃至第十八号証、参考第一号証及び第二号証ヲ提出シ、当庁明治三十七年第一千六号事件ノ判決ヲ引用シ、乙号証ノ成立ヲ認メタリ。

(筆者注)上屋久村の宣告書にはここに次の文言が加わる。「請求ノ目的物中原告ガ下戻ヲ申請セザリシ旨被告ガ抗弁スルモノニ付テハ被告ノ抗弁ヲ是認スル旨申立テタリ」

被告答弁ノ要旨ハ、係争地ガ古来有名ナル屋久杉ヲ産スル老木鬱蒼タル大森林ニシテ、其高地ニアル天然生ノ老杉ハ大木ニシテ樹齡數千年目通周圍數十尺ニ達シ、屋久杉ガ主産物中ノ一部ナルコトハ之ヲ認ム。而シテ原告ハ主産物ヲ

無制限ニ伐採シタルヲ以テ所有權ニ基ク行為ナリト云フモ原告ガ伐採シタルハ平木ニシテ屋久杉ノ全部ガ平木ノ製作ニ適シタルモノニアラザルコトハ甲第七号証ニ依リ推知シ得ベク、平木採取ハ殆ンド大海ニ於ケル漁業稼ニ比スベキモノナルヲ以テ、此点ヨリ見ルモ原告ガ土地立木ヲ所有セシコトヲ認ムルニ足ラズ。而シテ原告ハ此森林ヨリ伐出シタル平木ヲ以テ田租ノ代用ニ充テ、之ヲ賣買シ、藩ニ買上ゲラレ、又ハ貨幣ノ代用ニ供シタル事實ヲ以テ、係争山林ガ原告ノ所有ナルコトヲ証セントスレドモ、元來平木ヲ伐採シタルコトハ単ニ毛上山稼ノ証ト為シ得ベキモ、之ヲ以テ土地立木所有ノ証ト為シ得ザルモノナリ。而シテ平木ヲ田租ニ代ヘ、其他貨幣ノ代用ニ供シタルハ、既ニ伐採加工ニ依リ各人ノ所有ニ歸シタル板材ヲ以テ米麦又ハ貨幣ノ代用ニ供シタリト云フニ過ギズシテ、土地立木ノ所有權ノ有無ニ關係ナキ事項ナリ。抑モ屋久島ハ、原告ノ証拠自体ニ依リ明カナルガ如ク米粟ノ産出少ク、其他生業少ナキヲ以テ不得止藩庁ハ係争地ノ或部分ニ於テ毛上ノ伐採ヲ許容シ、其勞力加工ニヨリ得タル平木ヲ以テ租税ノ代納ニ充テ又ハ交換ノ用ニ供セシメ、以テ生計ヲ立シメタルニ過ギザルモノトス。又、原告ハ、甲第一号証ニ依リ鹿児島県令ガ係争山林ニ付キ原告ガ所有ノ事實アルコトヲ公認シタルモノナリト主張スレドモ、該証ハ明治九年ニ県令ガ係争地ノ毛上山稼ヲ地租改正迄ハ存続スルコトヲ許シタルニ過ギズシテ、係争地ノ所有權ヲ認メタルモノニ非ズ。元來屋久島ニ於テハ毛上山稼ヲ以テ其生業ト為シタルモノニシテ、地租改正ノ方針定マルヤ、政府ハ山林ノ毛上權ハ全然之ヲ廢止スルノ方針ヲ採リシヲ以テ、島民之ニ驚キ本証ノ嘆願書ヲ提出シ、従前通り毛上山稼ヲ聽届ケラレンコトヲ申出タル



屋久島を

飲む、食べる。

火渡 大衆割烹

宮之浦 夕方五時～夜十時 TEL 09974-2-1088

ヲ以テ、県令ハ地租改正処分ヲ終ル迄ハ従前通り之ヲ差許シタルニ過ギズシテ、係争地ノ所有権ガ原告ニ在ルコトヲ認メタルモノニ非ズ。蓋シ該指令ヲ為シタルハ地租改正事務局設置後ナルヲ以テ、県令一箇ニテ地租改正処分ニ依ラズ官民有区分ヲ決定シ民有ト認定シ得ザルコト明カナリ。故ニ本証中ノ指令ニハ「地租改正迄ハ従前ノ通り可相心得事」トアリテ官民有区分ノ決定ハ地租改正処分ニ譲リタルコト明カナレバナリ。又、嘆願書中ノ「村持支配山」ノ文字ハ単ニ原告部落ノ申立ニ過ギザルノミナラズ、其文意ハ村管理村支配ノ意義ニシテ村所有ノ意ニアラズ。又、甲第二号証（筆者注）上屋久村宣告書では、第四号証になつて

いる）以下ハ、個人関係ニシテ村方ヲ代表シタル個人ノ行為ナルコトヲ認ムルニ足ラザルノミナラズ、甲第二号証乃至第十六号証ハ何レモ単ニ平木ヲ以テ租税ノ代納ニ供シ、又ハ売買交換ノ用ニ供シ、又ハ建築用ニ供シタルコトヲ証スルモノ、第十七号証ハ一部島民ノ山入耕作、薪取稼ノ勤怠届、第十八号証御礼杉ハ藩林ノ立木ヲ伐採シタル御礼トシテ差立ツルモノト認ムベク、参考証ハ平木ヲ寄託シ若クハ売買シタル証拠ニ過ギズシテ、何レモ土地立木ノ所有ト関係ナシ。之ヲ要スルニ、係争地ニ対スル所有ノ証ナク、平木ニ採取シタル杉ハ自然生ニシテ私費植栽ニアラズ。而シテ自然生ノ杉立木ノ採取ヲ以テ山林所有ノ効果ト見ルニ足ラズ。主産物ノ採取ヲ以テ当然山林所有ノ効果ト見ルヲ得ズ。伐採加工ニ依リ所有ニ帰シタル平木ノ処分ヲ以テ、山林所有ノ効果ト為スヲ得ズ。而シテ乙第一号証ニ依レバ係争地ノ立木ヲ伐採スルニハ杉又ハ雑木タリトモ藩ノ許可ヲ要シタルコトヲ見ルニ足ル故ニ係争地ガ藩有山林ナルコト明カニシテ、原告ノ主張ハ何レモ失当ナルヲ以テ、原告

ノ請求ハ相立タズ、訴訟費用ハ原告ノ負担トストノ判決ヲ求ムト云フニ在リテ、立証トシテ乙第一号証ヲ提出シ、各甲号証及ビ参考証ノ成立ヲ認め、甲第七号証を引用シ且ツ当片明治三十四年第五百十六号、同三十七年第五百七十四号、同年第九百五十三号及ビ同年第十二百五十六号各事件ノ判決ヲ引用シタリ。

理由

一種特別ノ価値アル屋久杉ガ係争地ノ主産物ナルコトハ、原告各大字ノ住民ガ之ヲ伐採シ平木等ヲ製作シ、其平木ヲ以テ租税公課ノ上納米穀トノ交換、借受米銀ノ返済、売買寄託等ノ目的物ニ充テ来リタル事実アリタルコト原告各大字ヨリ明治九年甲第一号証ノ嘆願書ヲ提出シ鹿児島県令ヨリ同証ノ指令アリタル事ハ、当事者間ニ争ナキ所ナリ。而シテ原告ハ、許可ヲ要セズシテ屋久杉ヲ自由無制限ニ伐採シ平木等ヲ製作シ上述ノ用ニ供シタルハ之即チ元本処分ニシテ所有権ノ効果ト認ムベク、單純ナル毛上山稼ニアラズ且ツ此慣行ハ藩ノ公認シタル所ニシテ同証ニ依リ県令ノ公認ヲモ得タルモノナルガ故ニ、被告ノ処分ハ失当ナリト主張スルモ、甲号諸証及ビ参考証ニ依ルモ原告ノ主張ヲ立証スルニ足ルモノナシ。蓋シ甲第二号証（未年尾間村秋免並山役方）、第三号証（引付写）、第六号証（文久三年御蔵上納通リ帳）及ビ第八号証（明治七年甲戌十月小島雜記）ハ平木ヲ以テ免並ニ山役運上又ハ諸上納ニ充テタルコト、第四号証ノ一（安政三年原村諸上納出入帳）、同証ノ二（安政五年年中ノ原村免本上納帳）及ビ同証ノ三（文久元年原村御米並平木上納覚帳）ハ、免本米、田畑掛、屋敷掛、用夫掛等ノ諸上納及ビ宿代算用代等ニ平木ヲ以テ充テタル

医療法人観音会

屋久島尾之間診療所

内科・小児科・外科

〒891-4404 鹿児島県熊毛郡屋久町尾之間136-6

TEL 09974-7-3277 FAX 7-3272

医師 市地 春彦

コト、第五号証ノ一（明治四年諸算用名寄帳）、同証ノ二（同年ノ諸算用諸入目帳）ハ平木ヲ以テ馬貨錢、餅米、芋焼酎、筆墨代等ニ充テタルコト、第七号証（明治元年以後屋久島ニ関シ發セラレタル諸布達録）ハ平木ヲ以テ上納ニ充テ及ビ貨幣ニ代用シタルコト、第九号証（安房村ノ副戸長弁指及ビ吟味役ヨリ永田村副戸長ニ宛テタル預り証）ハ平木ヲ上納ニ充テ及ビ之ヲ寄託ノ目的ト為シタルコト、第十号証（手形所在藩奉行伊地知十郎左衛門ノ達書）ハ平木ヲ以テ借受米ノ弁済ニ充テ、又ハ之ヲ引替ニ藩庁ヨリ米ノ払下ヲ受ケタルコト、第十一号証ノ一（西十二月二十二日付永田村為右衛門外二名ヨリ手形所重役宛口上覚）、同証ノ二（西七月附永田村為右衛門ヨリ永田村下代宛乍恐上書ヲ以テ奉訴上候）、同証ノ三（卯閏九月付長田村善吉外六名ヨリ同村庄屋宛口上覚）ハ平木ヲ以テ借受米錢ノ代納弁済ニ充テタルコト、第十二号証（屋久島在藩奉行有川真次郎及ビ川上助八郎ノ達書）ハ御買入平木、御用平木アリタルコト、第十三号証（辰五月二十一日付手形所在藩川上助八郎ノ達書）及ビ第十五号証（藩吏ノ屋久島巡回ニ関スル記録）ハ平木ト米トヲ交換シタルコト、第十四号証（明治三年ノ安房村庄屋御米申受代錢並ニ平木上納積入差引留帳）ハ、平木ヲ以テ米ト交換シ、又ハ諸上納ニ充テタルコト、第十六号証（午四月十二日付宮之浦庄屋ヨリ原告庄屋宛覚）ハ平木ヲ賣買ノ目的物ト為シタルコト、第十七号証（天明四年辰壬正月十五日ヨリ平内村男女稼方聞届帳）ハ大字平内ノ男女ガ山入稼ヲ為シ居リタルコトノ、各争ナキ事實ヲ証シ得ルニ過ギズシテ、原告ガ係争地ヲ所有シタル効果トシテ自由無制限ニ屋久杉ヲ伐採シ得タルコトヲ証スルニ足ラズ。而シテ原告ハ、甲第一号証（屋久島副戸長及

ビ同島在勤副区長ヨリ鹿児島県令大山綱良宛テノ村持従前ノ通被仰付度願並ニ之ニ対スル明治九年一月八日附同県令ノ指令）ニ依リ、原告ガ係争土地立木所有ノ慣行事実アルコトヲ県令ガ公認シタルモノナリト主張スルモ前示諸証ニ依リ此如慣行アリタルコトヲ知ルニ足ラザルノミナラス、本証願書中所謂「村持支配山」ノ意義ハ前後ノ文詞ト対照シ単ニ村民ガ毛上山稼ヲ為シ得ル山ノ意義ニ解スルヲ相当トシ、此願ニ対スル県令ノ指令モ「書面ノ趣聞届候条地租改正迄ハ従前ノ通可相心得事」トアルニ過ギザルヲ以テ、唯係争地ニ於ケル毛上山稼ヲ地租改正迄認容シタルコトヲ認メ得ルニ過ギズシテ、原告ノ主張ヲ支持スルノ証ト為スニ足ラズ。其他甲第十八号証（慶応四年辰八月永田村日記留帳）ニ依レバ、用夫一人ニ付十五本ツツノ差杉ヲ為スベキモノナリシコト、及ビ舟又ハ家作等ノ為木元願ヲ為シタルモノガ御礼差杉ヲ為ス必要アリシコト、参考第一号証ノ一（弘化二年志戸子村夏免帳）、同証ノ二（文久三年志戸子村夏免帳）、第二号証ノ一（永田村庄屋弁指ヨリ有馬清兵衛ニ宛テタル預り証）並ニ同証ノ二及ビ三（永田村庄屋ヨリ屋久島下代宛ノ預り証）ニ依レバ、平木ヲ訴外志戸子村ニ於テ上納ニ充テ、永田村ニ於テ之ヲ寄託又ハ賣買ノ目的ト為シタルコトヲ知り得ルニ過ギズシテ、何レモ原告ノ主張ヲ証スルニ足ラズ。又、原告引用ノ当庁明治三十七年第一千六百号事件ノ判決ハ本件ト事實証拠ヲ異ニシ、之ヲ以テ本件ヲ律スルノ資料ト為スコトヲ得ズ。之ヲ要スルニ、係争土地立木ヲ原告ノ所有シタルコトヲ見ルニ足ルベキ証拠ナキガ故ニ、被告ノ本件処分ヲ取消スベキ理由ナシ。仍テ主文ノ如ク判決ス。

大正九年六月七日 行政裁判所第二部公廷ニ於テ宣告ス。



ひきたての豆でいれた
うまいコーヒーをどうぞ。

喫茶樹林

